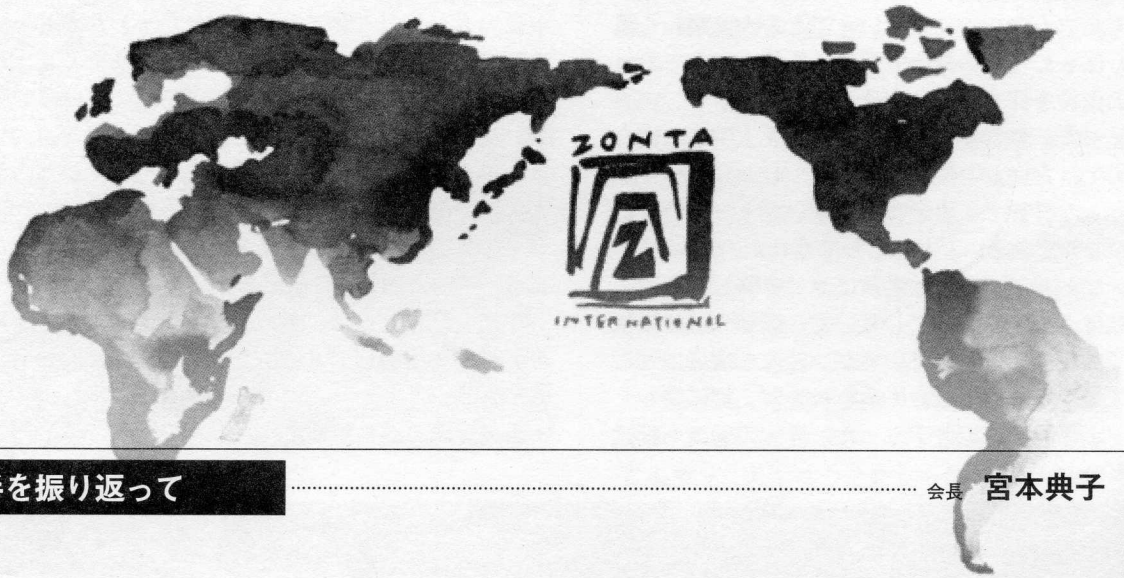
ZONTA INTERNATIONAL

OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪IIゾンタクラブ第10号（1999年2月）



1年半を振り返って

会長 宮本典子

昨年の６月に会長をお引き受けして１年半がすぎました。その間、クラブ内では、みなさんのご協力で、終始なごやかに良い雰囲気で推移し、会長として、本当にありがたかったと思います。エリアではこの間に、２つに分かれて新しいエリアとして出発することになりました。これまでの伝統の上に、新しいエリアの新しい伝統、性格がつくられてゆく大切な場面であり、エリアディレクター、ガバナーとの連絡を密に、他クラブとの友好を深めてゆくことを考えてきました。よくごくろうさまですといっていただき、確かにつぎつぎと仕事が増え、一息つく間もない時もありましたが、（主に本業との関係で）ゾンタはたのしい！と決めていますのでつらいと思ったことは一度もありませんでした。

私たちのクラブは１年に１回、隔年にコンサートと、講演とコンサートを含むパーティーをチャリティイベントとして開き、奉仕資金としていますが、'９７年度はアジアの若い音楽家による民族楽器を使ったコンサート、'９８年度は”ジョルジュ・サンドとショパン”をテーマに坂本千代さんと今井千穂さんにお願いし、ロイヤルホテルのお料理でパーティーをいたしました。どちらも大変好評で、段々と定期的にきてくださるお客様もできて、これからもつづけてゆきたいと思います。（あまり会員の負担にならなければ）そのほか毎年２月頃に講演会を開いています。女性と健康シリーズで、昨年は近視の手術、今年は子宮癌の予防がテーマです。

エリアミーティングは奈良と高松、そして来年は北九州です。高松は近いこともあって、沢山の参加者がありましたが来年もみんなでゆけたらいいと思います。何しろ２年後には私たちの番ですから。台北の地区大会はにぎやかで楽しい思い出がいっぱいできました。またパリ大会はひとりで参加しましたがこの次はぜひみんなを引っ張って来たいと思いました。そのほか各地のクラブのイベントや祝賀会にもださせていただき多くの素晴しいお友達ができ、私の宝物となりました。

昨年から委員会予算を増やし、活発な活動を希望していたのですが、以上のことだけで精いっぱいで奉仕活動に時間をあまり割けなかったのが残念です。ただ寄付については経費を減らして、かなりの成果であったと思います。

２年間、（まだ残っていますが）沢山楽しみ、沢山お勉強させていただいて、クラブの皆様、本当にありがとうございました。役員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

（'９８年１２月１８日記）

特集チャリティーイベントVol.5

講演とサロンコンサートのつどい

徳光　正子

イベントの司会を担当して

大型台風の到来で危ぶまれたお天気も会員の日頃の精進の賜物か、当日は穏やかな秋の日に恵まれ、第５回講演とサロンコンサートの集いをロイヤルホテルにて、349名の参加を得て盛大に開催することができた。

２６地区ガバナー原菊子様、エリアディレクター伊藤美智子様はじめ、各クラブからもチャリティーイベントということで、たくさんの方々のご参加を頂いたことを大変嬉しく思っています。しばらく仕事の都合でゾンタを休みがちであった私は、司会の大役を仰せつかり十分な準備もできず、いささか上ってしまった。素敵なゲストの先生方を上手にご紹介できなかったのではないかと反省している。しかしイベントの内容は、なかなか好評で、ホテルのマネージャーまで「こんな企画はなかなかできない」と感心してくれた。

ジョルジュ・サンドについては名前ばかりで詳しい事情に通じていない私は、大変楽しみにしていた。講師の坂本千代先生は、大学での講義には慣れているが、こんな機会ははじめてとのことで最初とても緊張しておられたが、実に楽しく解り安くサンドの世界をご紹介下さった。先生の著書も拝読させて頂き興味を抱いた点は数々あったけれど、今の時代ならともかく当時、自分の意思を貫き自由に生きた女性として魅力を感じる。ショパンとの恋などでとかく恋にも奔放で、感覚的なイメージを抱いていたが、時代の波に流されることなく現実を冷静に見極める社会的な洞察力にも優れた賢い女性であることも改めて認識させられ、まさにゾンタのイベントにふさわしい人物であった様に思う。しかし、地位や立場や服装がある程度その人を形づくる面もあるように、男装をすることによって精神の自由を得られるという現実が少し淋しい様でもあり、それがまた男と女のそれぞれの性の素晴しさであるのかも知れないと思ったりもしている。波乱に富んだ人生であったとしても、常に前向きに、人を愛する情熱は、多くの作品を生み出し、まぎれもなく生きていくエネルギーになっている逞しさに感動を覚えた。

午後のひとときは、激しいサンドの恋に思いを馳せながら今井千穂先生のピアノでショパンの名曲に酔わせていただいた。

台風一過の満ち足りた秋の１日でした。

講演する坂本千代氏

チャリティイベント経過報告

吉川　陽子

演奏中の今井千穂氏

今年のチャリティイベントは「講演」と決まって、では講演者はどなたになるか、どういう内容になるのかが、最も重要なポイントでした。そしてジョルジュ・サンドの権威でいらっしゃる神戸大学助教授の「坂本千代先生」に決定しました。サンドは、その情熱的かつ人間的な魅力の持ち主であることから、いろいろな人と恋に落ちますが、その中でも必ず出てくる「ショパン」を皆様はまず思い起こされると思います。そこで宮本会長の知人でいらっしゃる「今井千穂先生」にショパンを弾いて頂ければ、これは素晴しいイベントになることと確信しました。

それからはチラシ、パンフレット、チケット作りと、担当者は大忙し、そしてメンバーの役割り分担も決まりました。その後チケットの売れ行きは順調に進み、奈良、神戸フェニックス、高松、和歌山等各ゾンタクラブにも沢山御購入頂けました。また、チラシをいろいろな場所に貼るという方法は、大勢の方に見て頂けるということになったようで、当日飛び込みで来て下さる方もありました。

講演は、サンドのあまり知られていないお話、そしてその後の演奏は、サンドとショパンの愛の生活にまつわる曲目で、関連性も高く、構成が良かったと喜んで下さる方が多かったのは嬉しいことでした。また、遠方からもかけつけて下さり、多数の方に御出席下さいましたこと、深く感謝申し上げ、次のイベントへの力と致したいと思います。

花束を受ける坂本千代氏

パリ国際大会に出席して

宮本　典子

今夏７月１９日から２３日までパリにおいてゾンタ世界大会が開かれました。我がクラブは会員数が４０人以下ですのでデリゲートは１人、代理はありませんでした。いささか不安でしたが、何とかなるだろうと出発しました。ところが関空で伊藤ディレクターはじめ大阪Iクラブの方々とご一緒になり、JALと皆さんの乗られたエール・フランスが同じ飛行機で、シャルルドゴール空港からホテルまで大阪Iの方々のチャーターされたバスに乗せていただき(無料で！）全く苦労なしにコンコルドラファイエットまでつきました。ここは、１８年前、はじめてパリに来たとき泊まったなつかしいホテルです。ホテルで荷物をおき、１人で夕食もつまらないな、と思っていましたら今度は京都IIの皆さんにお会いし、ご一緒にお茶を飲むことができました。というわけでちっとも寂しくなく元気にいって参りました。

開会式は翌日の夕方でしたがまず、当日の朝から地区会、ガバナーと役員の交代が行われました。つぎに、ツインクラブ交流会、ここでは２６地区は７、８地区とシスター地区となり、大阪IIはカンサスのジョンソン・カウンティエリアと姉妹になりました。ジョンソン・カウンティエリアの第１副会長のシエリル・デイズニー・ブリーデンさんも世界大会ははじめて、１人で参加されていて、その後閉会パーティまで何かとご一緒になりました。アメリカの真ん中のカンサスのこのゾンタクラブは地域が広く、車で片道２時間かけて例会に集まられるそうです。

開会式はオーケストラで始まり、これまでの歴代国際会長が紹介され、基調講演の後、６８ヵ国の国旗が民族衣装のゾンシャンに掲げられていて１つずつ入場し、素晴らしい雰囲気でした。この大会をホストした２９地区はフランスのほかドイツ、オランダ、イギリス、アイルランド、ロシアなどでなり、まさに国際的協力だったそうです。それぞれ美しいコスチュームで紹介されました。

開会式の後のパーティはタイタニックに積んだほどの大量の各地方ご自慢のワインとチーズがでました。前会長のクックさん、彼女には鎌型赤血球貧血という私ども生化学者になじみ深い病気を乗り越えられたと伺いとりわけ近親感をもっています。私達のブローチをさしあげました。またソランケさんも名古屋で会いましたねとおっしゃってくださいました。

職業別昼食会は教育関係に、国別では今回訪問する予定のないドイツにはいりました。宝生寺の絵はがきがたくさんあったので持ってゆき１枚ずつ配ったところ、好評でした。仏像、建物、植物（花）等皆さんとても興味がおありでした。

グッズの販売では、私達のクラブのイアリングとブローチはとてもゴージャス、と好評でした。いくらと聞かれ、やめられた方も惜しそうでした。お店を開くには奈良ゾンタクラブの１画にお世話になりました。アフリカの方は素敵な生地や彫刻、北欧はカレンダー、フランスはワインや香水、ガラスのブローチなどいっぱいありましたが、ショッピングをする時間はほとんどありませんでした。ゆく前には計画に入れていなかったムーランルージュのキャンセル待ちをしたりいろいろしましたので。

投票はとても厳粛なものでした。ルールはきちんと守られ、候補者の演説も、赤ランプでマイクが入らなくなります。決まったことは、ガバナーやエリアディレクターのニュースレターでご存じと思いますので省略しますが、印象に残ったのは、’１人が１人を’といって、会員やクラブを増やせば、それだけゾンタの収入も増えるということです。本当にそう、広報活動が重要と思いました。また委員会もいろいろ検討し、組み換えられました。私達のクラブも各委員会の役割を明確にし、検討する必要を感じました。それからとてもお年を召したり、足が悪かったりしても車椅子でどんどん出席されているのにも感心しました。また子供さんの病気やアクシデントで会場到着が間に合わず、議事の順番を応急的に入れ替えたり、なかなか家庭的で、なごやかな面もありました。総じて楽しいものでした。これから皆さんぜひ参加されるとよいと思います。

引き続き南フランスのツアーに参加しました。総勢２０人ほど、原さんご夫婦もご一緒でした。ここでもたくさんお友達ができました。その１人ニュージャージーのアトランティック・シティ・エリア　ゾンタクラブのジョアン・フリードマン・メイヤーさんは今度の会長さん、クラブのチャリティーイベントや会費などについてもつっこんだお話が出来ました。このクラブもぜひツインになりたいとお手紙が来ております。ニューヨークの近くなので来たらすぐ行くからとのことでした。南フランスのツアーでもニーム、モンペリエ、トゥールーズのホテルへその土地のゾンタクラブの方が見え、いろいろお話が出来ました。家族や仕事と離れ、女性ばかりのこのようなツアーも楽しいものでした。

わ リレー・エッセイ 思い出すまま、思いつくまま

田中　茂美

大阪市勤務医となって早くも１６年目を迎えた。その間、保健所・市民病院・交通局と職場も変わったが、「医療現場」である事と対象が「生きている人」である事は常に変わりはない。思えばそれぞれに体験した事が、今の私の糧となっている。以下その一部。

★内科医なのに保健所で乳幼児検診を受け持つハメになった。本を読んだが自信も無くよく解らない事が多かったので、若い母親達の話を丁寧に聞いて小児保健センター等に紹介状をマメに書いた。なぜかそれが受けて受診や相談にくる人が増えた。

★所轄の中学にインフルエンザの予防接種に行った時の事。「おい、水野」と太い声がして、「はい」と返事の声がした。みると金髪モヒカン頭に担任が頭を下げていた。

★保健所の被爆者検診では戦後も長くなり検診に来る人も高齢となり減って行く。なかに当時３９歳の人が居た。広島で胎内被爆をした人で甲状線を患っており、自分の子供の将来を心配していた。戦後は消えない。

★市民病院で初めて外来をする事になり、白衣聴診器で診察室で緊張の極にあった時、入って来たオッチャンが「ネェチャン、ひょっとしたら医者けぇ。」と私にいった。その十年後、肝硬変で臨終間近、その人は「先生、ええオバハンになったなあ」と言ってくれた。妙に懐かしい。

★離婚が成立し、名前が田中に戻って数日後、糖尿病の老女が、立派な紅白饅頭を私の為にしたててくれた。「祝いやで、やっと行かず後家卒業や。心配してたんや。婿はん大事になぁ」本当の事が言えず、「うん。ありがとう。」と返事をした。４日かかって娘と食べた。餡が固くなっていたが、美味しいと思って食べた。

★「目のみえるうちにと思い仕上げました。最後の作品です。」と見事なパッチワーク・キルトが送られて来た。数年後糖尿病で光を失い、腎臓も悪くして、心不全となったその人に透析を勧め転院を促したが、全く聞き入れてくれなかった。臨終近く「生きてて欲しいのに」と言いながら手を握ったら、見えぬ眼で私の方をじっと見つめて微かに頷いた。数時間後、帰らぬ人となった時、トイレで大泣きしてしまった。今だに悲しい。

★肺癌で肺に大量に水が貯まり呼吸困難で来た人。奏功しそうな抗癌剤は副作用が強いので全て拒否し薬も胃薬しか飲まない。「ワシは病気とちゃうで。癌がどないした。」と毎日怒鳴られた。仕方ないので、サルノコシカケ・エキスを胃薬と偽って飲ませていた。ある日、病室にマチキン（借金取り立て屋）が来て逃げ出そうとしたので、「ほら、病気だろ」と説得するつもりでレントゲン撮影したら正常になっていた。サルノコシカケが効いたとは考えられない。数年後その人は脳卒中で他院で死んだ。

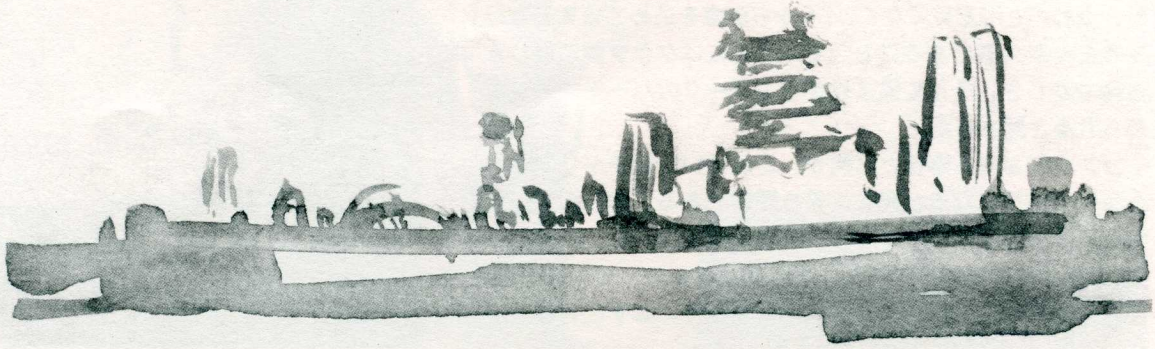
★辞令により公営企業の産業医となり、医師ではあるが一企業人にもなってしまった。企業の数々の根底の問題は、「人」「金」につきると感じる。来年度の予算申請でボールペン等の文具も削られ、昼休みには、事務所のエアコンも電灯も消され、スタッフも毎年減らされて２５人になった。が、交通局の２６００億円の赤字は年々増える。

★新聞に「大阪交通局」と載る時はロクな事がなく、職員の不祥事は身の縮む思いがする。これら、極く一部の者の採用時を調べると、市会議員のコネ・ゴネ付き採用の者だったりする。市会議員って何様！退職したらオンブズマンになってやるゾー。

★医師の立場と企業の立場は相反する事もある。３０年前から変わらぬ旧態然とした特殊検診内容を現在の法規に照らし合わし改正しようとしたら「慣習」の壁にぶつかった。「慣習」には理論はない。そんな事が多過ぎる。企業の為、働く人の為と忍耐一路で説得したら５年かかって１項目のみ改正が成った。

★職員一万人余のうち女性は４００人に過ぎない。産業医に女性が来たと言うので、婦人科医でもないのに「特別女性健康講座」で婦人科の話を４０回行う事となった。５０歳前後の「お局様」と称される方々を前に、「更年期」を「甲年期」と黒板に書いてしまった。「先生、コウラって私らの顔ですか年の事ですか？」と質問され、脂汗が出た。笑ってごまかそうとしたら、自分の顔がこわばっているのを感じた。

　挙げればキリが無いので、今日はこれにて失礼。



奉仕活動とは

トレーニングセミナーに参加して ……幡山　玲子

平成１０年１１月２３日エリア１、エリア４合同のトレーニングセミナーがパシフィコ横浜会議センターで開かれた。

クラブが発足して間もないころ、みなとみらい２１で開かれたトレーニングセミナーに参加したことがある。その頃はみなとみらい２１のシンボルであるランドマークタワーぐらいしかできておらず、地下鉄の駅だっただろうか、駅を出てからトタンで囲った空き地のなかをくねくねと歩き、透明トンネルのような動く歩道橋をつたって会場まで行った記憶がある。

その当時、ゾンタクラブは職業を持つ女性たちの奉仕団体である、ということぐらいの漠然とした理解しかなく、会議にでていても、トレーニングセミナーがどのようなものであるかわからないまま、プログラムについていくことだけで精一杯、階段状になった会議場で、右往左往していたようなおぼろげな記憶がある。

クラブ発足後５年を経過し、国際ゾンタの組織や手続きについて以前より理解は深まっているとは思うが、まだまだわからないことが多い。また、実際のクラブ活動においても、他のクラブがどのような奉仕活動をなさっているか、運営はどのようにされているか、クラブ員の確保、減少にどのように対処しておられるか等、執行部の一員として他のクラブの経験を聞くことができればと思い、参加した。

午前中、国際指名委員エミ-ライ氏の「国際ゾンタ精神について」と題するスピーチがあった。彼女は「国際ゾンタの奉仕とは幅広く、金銭面での援助は別として、いろいろな形で援助を必要とする人たちに最も有効な方式」で行うことであり、うわべと形だけでなく、「心から誠意を込めて着実に実行」することが大事であること。そのためにはクラブ員に優しさと奥ゆかしさ、そして何よりチームワークのハーモニーが求められると話された。

ゾンタにおける奉仕とは何か、これはいつもチャリティイベントの時期になると頭をよぎる問題である。奉仕の意義については会員の中ではそれぞれ微妙に違っていることと思う。「魚を買い与えるだけでなく、魚の捕り方をおしえてあげる」ことの重要性は理解できるが、これを実行に移すことは大変難しい。我がクラブは拘束性のある仕事に従事している会員が多く、体や時間を使っての奉仕には困難が伴い、結局は金銭による奉仕となる。その奉仕資金をどのように集めるか、イベントの企画にいつも頭を悩ます。午後からの伊藤エリア４ディレクターの「奉仕資金の集め方」と題するスピーチは具体性に富み、多いに参考になった。その後の質疑のなかで、松本や広島ゾンタクラブのチャリティーイベントについて紹介があり、ゾンタ会員の人的ネットワークを通じて講師をお願いする等、経験の披れきがあった。もう少し時間があればもっと詳しく話をききたいおもいだった。Yun-Sook Lee副ガバナーはゾンタクラブの活動は奉仕だけではなく、時間、エネルギーを捧げて自己成長することにあると説かれる。そして、クラブの成長度チェック項目を１０挙げられる。１０項目をわがクラブにあてはめて考えると、身につまされる点が多い。

今回のセミナーは、朝早くからみっちりスケジュールの詰まった会議であり、少々疲れたが、得るところ大であった。

秋の移動例会

飯島　恵里

秋の移動例会は、村橋会員のご厚意により、「ギャラリーもず」を出発点に、湯木美術館、適塾、と大阪の北浜周辺の散策を楽しんだ。

１２：３０より「ギャラリーもず」（伏見ビル内）での例会。土曜日の昼間の例会と言う事もあり、出席者は１２名。伏見ビルは大正時代に建てられた洋風建築で、大正デモクラシー

ギャラリー「もず」にて

の薫りが漂う、落ち着いた建物だ。イベント後初めての例会と言う事もあり、活発な意見が交された。「ジョルジュ・サンド」が一般にあまり知られていないため、チケットの売れ行きが心配されたが、予想以上の売れ行きで、外部からの評判が非常に好評であった事が、会員一同の自信と満足感につながり、これからも収益にこだわらず、大阪IIらしい活動をと言う意見に終始した。昼食は会場を湯木美術館地下の「正月屋」に移して、料亭のお味に舌づつみ。次回イベント、10周年に向けての活動への抱負等、活発な意見が交わされた。

湯木美術館

料亭「吉兆」の品の良いコレクションが、数多く収集されており、公共の美術館とはひと味違った身近な感覚で、国宝級の作品が鑑賞できる。１０月からの、「秋季展」、「向付」のコレクションには、文様の味わいに魅力のある「志野」。大らかな文様の「織部」。美濃焼の影響を受けた「唐津」。京焼では「乾山」「道入」「保全」の代表的な作品が展示されていた。「向付」は、飯椀と汁椀の向こう側に置かれ、その器又は器に盛られた料理を示し、懐石器のなかでも自由な発想で作られたものが多い。

適塾

緒方洪庵は、優れた蘭学者・医学者であったが、同時にみごとな教育者であった。適塾門下生には、医学者・蘭学者として出発しながら、明治維新をもたらす政治の動きに身を捧げた橋本左内、大村益次郎がいる。慶応義塾の創立者、福沢諭吉も又塾生であった。塾生の勉強は、他塾とは比較にならないほど厳しいもので、ストレス解消の為に設えた柱に残る刀傷が、当時の若者の熱気を物語っている。そして適塾は何度か形を変え、現在の大阪大学医学部となる。この様な歴史的背景のある適塾。今は一般公開され、土曜日の午後と言うこともあり、見学者も少なく、この落ち着いた町屋のたたずまいは、懐かしく、落ち着いた雰囲気の中、私達を迎えてくれた。一歩中に入ると、ここが商都大阪北浜のビジネス街にあるということを忘れてしまうほど静かな空間だ。約２００年前（幕末のころ）後に日本の近代化に貢献した若者たちが、明日の日本を夢見て学問に没頭した姿を思いながら参観する。私達にとって身近な町大阪にこの様な歴史的なスポットがあったこと、先人の努力と犠牲を礎に今の我々の暮らしがあること、忘れていた何かを思い出させてくれた一日であった。

適塾にて

委員会報告

企画委員会

委員長 西　麗子

歴代の企画委員会の方針を受け継ぎ、例会の運営やイベント等が、ゾンタの基本理念に沿い、しかもクラブの独自のカラーを出せるように努力をしております。年一回のイベントは、活動資金確保のため不可欠なものですが、自分達の勉強にもなるよう、女性の地位の向上に関係のある講演を選びます。又音楽会も新進気鋭の若い音楽家の発表の場を提供したいと考えております。魅力ある例会作りも重要な任務です。今期の特徴としては、バイローのワンポイントレッスンを加えた事でしょうか。これからも会員の意見を広く聞き、魅力ある大阪IIゾンタクラブにしたいと考えております。

長期計画委員会

委員長 田中　茂美

当委員会は総じて地味である。活動も地味で存在も地味だ。ただこの一年半、委員会として唱え続けていることが２つある。その１：間近に控えたエリアミーティング開催の準備、４年後となった１０周年記念事業の準備を具体的に行って行く事。特に「資金調達」と「記念事業」は、クラブカラーを表明する事になるので慎重に準備する必要がある。その２：本クラブの方針として今後変わらず行う福祉事業（寄付）の確立を図る事。すでに大阪市にハクモクレン植樹を寄贈し、フォスターペアレントとしてスリランカの女児に学費支援をしている。近年、イベント収益の寄贈先も多数に及んでいるが、出来れば広く少額よりも、少しでも高額にして限定した方が寄贈の意義が有り、相手方にも喜ばれると考えている。

国際委員会

委員長 西村　博子

世界のクラブやゾンシャンとのつきあいを深め、国際関係を改善するプログラムを計画する。又国連関係のプログラムを推進し、他の諸国との友情を深める。この様なゾンタの目的にそって私達は今年度も下記の活動を継続、実行しています。１．発展途上国の女性やこどもを支援するために、フォスタープランでスリランカの子供達２名を１年通じてサポートする。２．ネパールの目の治療、手術の援助の継続。黒住医師（芦屋市立病院）の活動計画への支援。３．新しい企画として、近辺にある大使館、領事館を訪問し、その国の文化に触れ、理解を深め、？？料理を楽しむ事なども如何でしょうか。

女性の地位・アメリア・イヤハート委員会

委員長 久岡　眞佐代

１９９８年１０月２９日委員会を開催。委員４名全員出席。（丸山、福本、幡山、久岡）本年度のテーマは、「夫の妻に対する暴力（DV=ドメステック・バイオレンス）に関する研究」。亭主関白の日本では表面化されにくい面があったが、東京都の調査ではパートナーのいる女性の６割が何らかの暴力を受けているという（１０月２１日付け朝日新聞家庭欄）。根底にあるのは男女不平等であり、強いものが弱いものを支配しようとする重大で深刻な人権侵害である。女性を一時的に保護するシェルターの実態、自立支援、法的保護等について勉強していきたいと思う。

親睦委員会

委員長 柿木　道子

親睦委員の仕事、それは栄養素で言えばビタミンの様なものかな？今、私達のクラブは皆とても仲が良い。が、更に成長の過程で、時には議論が対立する事もあるかも。そんな時でも、お互いが理解し合って一つの目標へ進んでいける様、日頃から互いの心に接点を持ちたい。国内外のゾンシャンと交流を図り、何か一緒に企画する様なことも打ち出せたら面白い。と思いながら、今年も又忘年会と新年会の計画が精一杯。年度末には皆勤賞や紫陽花賞も有るので、がんばって例会に出席して下さいね。

チベットに学校を・・・（１１月例会卓話より）

飯島　恵里

バイマーヤンジンさんを囲んで

バイマーヤンジンさんが大阪II ゾンタクラブVOL 4のチャリティーイベントで、美しいチベットの民族衣装を身にまとい透き通った歌声で私達を魅了して下さいました事皆様も憶えておられる事と思います。標高4200M、人口230万人のチベットは、一年の8ヶ月が冬。中国、四川までは、バスで2日間もかかります。チベットの遊牧民はほとんどの人が字が読めません。遊牧民の暮らしの向上のために、乳搾り機を購入したとしても字の読めない彼等には、使いこなす事が出来無いのです。バイマ-ヤンジンさんはこの数年チベットに学校を建てる運動を起こしておられます。各地の小学校を回り、チベットの子供たちの様子等を伝えておられます。「日本人の子供は奇麗な服を着て、豊かな生活に恵まれているにもかかわらず、チベットの子供より目が輝いていない。」と言われたバイマ-ヤンジンさんの言葉には返す言葉がありません。寄付金は、チベット学校推進協会に送られ、チベット自治区が調査の上、開校の運びと成りますが、現地の調査が重要なポイントとなります。「遊牧民の生活に適応した、移動できる学校にしたい。」と、彼女の美しい瞳がキラキラ輝くのが印象的でした。お母様との約束どおり、チベットの心を忘れないで、ふるさとの役に立ちたいというバイマ-ヤンジンさんの願いが早く叶いますよう応援したいと思います。

編　集　後　記

事務能力・管理能力の欠落には、我ながら呆れ果てておりますが、いつの間にか、
パソコン・インターネットを操る自分自身に驚きを覚えております。
原稿をお寄せ頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

大阪IIゾンタクラブ　1999年2月1日　広報委員長　飯島恵里